

会 員 の 声

木の心とエネルギー資源

植 嶋 宏 元*

エネルギー・資源研究会が発足して、一年が過ぎた。この間に発行された雑誌が8号になる。この一号ごとを大変興味をもって愛読しているものの一人である。各号ごとに、非常に興味あるテーマをかなり具体的にしかも我々にもよく理解できるように、紹介されていて、色々な点で参考になり有効に活用しているものである。ただこの8号を通じて一言申し述べると、エネルギー・資源というタイトルでありながら、実際の内容は“エネルギー問題”ということになっており“資源というテーマがほとんど皆無であること”である。

もともと、エネルギー問題は、ローマクラブのレポート“成長の限界”に端を発したことはよく知られたことである。

即ち“地球上のあらゆる資源は有限であって、このままの状態を消費を続行すると、2,000年代には、人類の破滅がある”という。当時、盛んに叫ばれた終末説のかなりドラスチックな説の一つであった。

これに対し、地球上の資源が特定地域に偏在している。また石油、ボーキサイト、天然ゴム等のようにその生産量の大部分が発展途上国に偏在している資源については、資源カルテルが行なわれるようになり、特にOPECが石油資源についてこれをむすび、先進工業国への石油の価格操作を行なうようになった結果、エネルギー問題がクローズアップされたことは、よく知られていることである。

このようなことは、将来、単に石油だけの問題ではない。それ以外の資源についても発生してくることは十分考慮しておくことが必要である。我国のように、重要資源のほとんどすべてを国外に依存している国は、一旦、緊急時には石油同様に、多大の影響を受けることはいまさらいうまでもない。

このために省エネルギー、エネルギー有効利用、代替エネルギー等のエネルギー問題と同レベル、またはそれ以上のレベルで資源についても、省資源、有効利用、代替物等についての研究開発をより積極的に進めるべきであり、当研究会でもこのテーマについても、より積極的に取り組むべきだと思う。特に代替物については、我国に多量に産出する資源について、その可能性を検討して行くこと、また現在、廃棄物として取り扱われているものについても、利用法がないからという理由で、また少し工夫すれば十分利用できるものを、そのまま廃棄しているというような物が色々ある。これらについての研究開発の現状と問題点について検討してみてもどうかと思う。

最後に一つ、資源有効利用を考える場合の何かの参考として最近聞いた話をここに示す。

薬師寺の金堂、西塔の再建を行なった宮大工の西岡氏の話である。

“木造建築物を千年とか千五百年という長期間耐える物に仕上げるためには、そこに利用する材料（この場合に主として木材）を十分吟味する必要がある。そのためには、材料の心をよく知ることが大切である。例えば、木材一つ取ってみても、ひの木、杉、松等々あるけれども、これらの材料の特性を十分に知って、それをいかに効果的に発揮させるように利用するかは全体のバランスを考えながら実施することである。これをおこたると、千年はおろか、数十年ももたない”ということである。

この言葉は、何でもないのであるが、味読すると単に資源だけでなく、エネルギーを含めた問題点に関しての研究開発を実施してゆく場合、基本的に忘れてはならない点を、指摘しているように思えるので、ここに記することにした。

*ユニチカ(株)中央研究所第6研究室室長
〒611 宇治市宇治小桜23番地